

学習内容と到達目標

👂 お世話になった人の思い出を話す（やさしかった祖母、きびしかった先生など）。

指導のポイント

1. INTRODUCTION

第8課からはステップ2に入るので、ステップ1での学習内容が定着しているか十分に確認した上で先に進む。①で「～てもらった」や「～てあげる」を使ってうまくロールプレイができなかったり、②で質問にすぐに答えられなかった時は、第1課の入念な復習が必要。なお、②の会話は、香港に帰国したリーさんが日本での経験を大学の先生に報告するという内容であり、その様子を表現したイラストが9ページにあるので、リスニングの弱い学生にはこのイラストを見ながら聞かせるようにする。

2. SPEAKING

絵を見ながら、山川さんのおばあさんの思い出を説明させる課題。イラストによっては何を意味しているかわからないものもあるが、CDを聞く前に学習者に内容を想像させることが目的なので、いろいろな意見が出て構わない（むしろその方がよい）。

3. LISTENING

①では話の内容に注意を向けさせ、イラストの中の間違いを指摘させる（ほとんどのイラストに間違いがある）。その後、②でスクリプトをじっくり読ませ、内容を確認する。この時、優しくかった祖母の思い出に話す時は「～てくれた」が、厳しかった祖母の思い出を話す時は受身形が使われていることに気づかせる。

4. FOCUS

①は、「私」が受益者の2、3、5、7で正しく「～てくれる」が使えるかどうかのポイント。②では（例えば1のように）人物が1人しか明示されていないことも多いので、まず誰が誰に何をしたのかを考えさせ、その後で助詞に注目させる。1の場合、大石先生が私を車で駅まで送るという意味で、且つ大石先生が「ニ」でマーキングされているので、「(私は) 大石先生に車で駅まで送ってもらった」となる。

5. LISTENING

絵を見ながら、山川さんのお父さんの留学時代の思い出を説明させる課題。手順は[2.SPAEKING]と同じ。

6. FOCUS

①では「私のカメラは弟に壊されました」のような物を主語にした受身文を作ってしまう学習者が少なくないので注意。このような間違いは（能動文を受動文に変換させるのではなく）「<被害者>は<行為者>に [V れた]」という文型で教えることによってある程度回避することができる。④では、「感謝しているのか、当惑しているのか」で受益文なのか受身文なのかを判断し、「自分がお願ひしたのか、相手が自発的にしてくれたのか」で「～てもらった」なのか「～てくれた」なのかを判断する。

7. SPEAKING

山川さんの話 (=2.SPAEKING) をモデルに、以下の構成で学習者にお世話になった人の思い出を話させる。

- I お世話になった人の紹介 = 質問 1 と 2
- II 優しくったその人の思い出 (～てくれた) = 質問 3
- III 厳しかったその人の思い出 (受身形) = 質問 3
- IV その人に再会したら、お礼に何をしたいか (～てあげたい) = 質問 4

8. COMPOSITION

[7.SPEAKING] で話したことを作文にまとめさせる。